

将学生生活を返して

県立N高等学校 Y・K

私はこの高校生活で様々なことを学びました。無償の愛の尊さと得難さ、挑戦することの持つ真の価値、教え、育てることの意義。様々なことを感じ、学ぶ中で私には夢ができませんでした。そこで、私の夢についてお話ししようと考えたのですが、適当な書き出しを思いつかないで、キング牧師の言葉をお借りして、こう書き始めようと思います。私には夢がある。

私には夢がありません。それは、いつの日か全ての子どもたちが偏った思想や固定観念に囚われず、自由に、そして健やかに育つことです。幼少期に触れた思想や価値感というものは子どもたちの成育に大きく影響します。この時、極端で偏った思想や固定観念に触れると、視野が狭まり、のびのびと育つことが難しくなってしまう。だからこそ、私は子どもたちが様々な意見に触れることができる場を設け、自分と異なる意見とどのように向き合っていくのか考えて欲しいのです。

私には夢があります。それは、いつの日か
全ての子どもたちが本を通して豊かな教養や
感受性、そして新たな視点を身につけられる
ことです。私たちは本から多くのものを得ら
れます。また、そうして得られたものは、子
どもたちの成育に良い影響をもたらすし、豊か
な人間性を育む手助けとなるからです。

今日、私には夢があります。この夢を実現
し、子どもたちの人生を少しでも豊かなもの
とするために、私は教師を志しています。こ
うして夢についてお話しできるようになって
たのも、のびのびと高校生活を送ることができ
たからであり、小貫基金の皆様から頂いた奨
学金のおかげで、金銭面の心配をする必要が
なかつたからだと考えています。最後になり
ますが、三年間という長い間、私のことをご
支援して下さり、ありがとうございました。
これからも夢に向かって努力していきたいと
思います。

奨学金生活を振り返って

Y 高等学校 H・S

私は三年間、奨学金のおかげで勉強、部活動に満足して取り組むことができ、充実した高校生活を送ることができました。大変感謝しています。

勉強面では、長期休暇中の補習を取ることで、苦手教科の克服を果たし、得意教科を深掘りして学力を伸ばすことができました。

実際に苦手としていた英語の点数を向上させることができ、テスト後に行われるクラス替えでは、下位のクラスから二番目のクラスまで上がることができました。得意教科である現代文では、三年次の一学期期末試験では、現代文選択者の中で、十六位になることができ、初めて順位表に載ることができました。

また、補習以外では、土曜講座という様々な職業に触れたり環境問題について深く考えたりする講座があり、私は二年次に多くの講座を受講し、現在目指している看護師について

学 ぶ こ と が で き ま し た 。 具 体 的 に は 、 現 在 国
 際 看 護 師 と し て 働 い て い る 方 に リ モ ー ト で 授
 業 を し て 頂 い て 、 国 際 看 護 師 を を 目 指 し た 理
 由 や 、 仕 事 内 容 、 や り が い 等 の そ の 人 に し か
 聞 け な い こ と を 聞 く こ と が で き 、 大 変 貴 重 な
 講 座 を 受 講 で き た と 思 っ て い ま す 。
 部 活 動 の 面 で は 、 柔 道 部 に 所 属 し て い る の
 で 、 柔 道 着 や 部 活 動 用 の ジ ャ ー ジ を 購 入 す る
 際 に と て も 助 か り ま し た 。 柔 道 の 大 会 で は 良
 い 結 果 を 残 す こ と が で き ま せ ん で し た が 、 同
 級 生 や 後 輩 た ち と 一 緒 に 敵 し い 練 習 を 乗 り 越
 え 、 柔 道 の 精 神 を 学 ぶ こ と が で き ま し た 。 三
 年 次 の 体 育 に 柔 道 が あ り 、 そ の 基 本 で あ る 受
 け 身 や 技 の 手 本 な ど を 生 徒 の 前 で 実 演 し 、 柔
 道 の 楽 し さ や 難 し さ を 伝 え る こ と が で き 、 授
 業 に 役 立 て た と 思 い ま す 。
 奨 学 金 の お か げ で 、 三 年 間 本 当 に 楽 し い 学
 校 生 活 を 送 り 多 く の 良 い 思 い 出 が で き ま し た 。
 本 当 に あ り が と う ご ざ い ま し た 。

奨学金生活を振り返って

Y高等学校 T・N

高校生活を振り返った時、私が過ごした三年間はとても充実したものだと思います。

そのような学校生活を送ることができたのは貴財団のご支援のおかげです。私には二人の妹がおり、昨今の物価の上昇と相まって本来ならば学校生活を充実させる余裕などありませんでした。しかし貴財団の奨学生に選ばれたおかげで、生活に余裕が生まれ参考書を買うことができたり、塾に通うことができたりしました。また、学習環境を充実させることや、金銭面の余裕によって精神的に楽になることで勉強や日常生活を意欲的に過ごせました。このような充実した三年間を送ることができたことの恩は返しきれぬものではありますせん。

また奨学金を受け取るという事を通じて私は私が今いる場所というのは当たり前前の場所ではない事に気が付きました。この気付きに

より私は高校に通えることにありがたみを感
 じ、学校生活を一所懸命に送るようになりま
 した。学生という立場に恥のないような生活
 態度を常に心がけるようになりました。学校
 行事には積極的に参加し精一杯楽しみました。
 勉強に対する取り組みも大きく変化しました。
 中学生の頃には間違えた時自分の事を許して
 いました。が、奨学金を受け取るようになって
 からは少しの間違えに対しても復習をするよ
 うになりました。高校卒業後は大学で認知情
 報学を学びたいと考えています。認知と情報
 の二つの道から人工知能の発展に貢献し、将
 来は人工知能と人間が共生している社会の形
 成に役立ちたいと思います。
 最後にになりましたが私が高校三年間を充実
 した物にできたのは貴財団のおかげです。貴
 財団への感謝を胸にこれからも頑張ってい
 たいと思います。

「奨学生生活を振り返って」 * 400 ~ 800 文字												
							I 高等学校 M・W					
私は、奨学生生活を振り返ってとても充実												
した日々を過ごせたことと思っております。奨学												
金を利用して、大学の授業料や、大学で使用												
するパソコンの費用等に使いました。1年間												
の授業料が約120万円程度なので、その中の												
数十万円というふうに考えたと少ししか上												
と捉えられてしまいかも思いませんが、私は												
その「少し上か」としても重くありませんと感じて												
います。また、私は大学で使用するパソコン												
を購入する際に、性能が少し落ちてしまっ												
ても少しが安いものを購入しようと考えてい												
ました。しかし、奨学金を利用することによ												
り、性能の高い質の良いパソコンを購入する												
ことが出来ました。高校生活での授業料等に												
を利用してました。大学進学を可能に、成績												
は常に高い点をキープするより努力しました。												
その為に、教科書等を奨学金を利用して購入												
し、自ら進んで勉学に励みました。												

この奨学金を利用して得たものを決して無
 駄にせず、大学生活をより充実させたいと思
 っています。体育教師にたるといふ夢を叶える
 ため授業を一生懸命受けるだけでなく、今と
 変わらぬ自ら進んで勉強するといふことも経
 続してや、たいこうと思、たいです。また、
 奨学金を利用して授業料を補、ていることで
 自分の中で授業中の意識がかわりました。奨
 学金を頂き、そのお金で授業を受けるといふ
 ふうに考えると無駄にしてはいけませんといふ
 気持ちから、より一層勉学に力が入、により
 たいがしてたいです。大学入学後、奨学金を
 利用しているといふことを忘れずに、自ら学
 ぶといふ姿勢を常に継続させようと思、たい
 です。

私は奨学生生活を振り返って高校生活で充
 実させたものを大学生活でも継続させ、夢を
 実現するため、今より一層充実させたい
 ものにしたいといふふうに思、たいです。

I 高等学校 K・H

御社から奨学金を支給して頂き、充実した高校生活を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

私は市川高等学校の中で、勉学は勿論のこと、課外活動、部活動、委員会等積極的に参加してきました。ここでは、特に力を入れた活動に関して報告させていただきます。

1年生の時は立命館高校主催の国際共同研究プログラムに参加し、香港のGTCollegeと東工大付属高校と1年間共同研究を行いました。この経験を通して母国語以外の言語での意思疎通の難しさを体感するとともに、お互いが歩みよろうとする姿勢が必要なのだと学びました。押し付けることなく、適切に自分の意思を表示することが他国の人とのコミュニケーションにおいて重要だと思いました。

2年生ではタイで行われたTJSSFというサイエンスフェアに学校を代表して参加しました。私はSSHで1年間研究した成果を発表したのですが、他国の制度の熱心さや研究の洗練さを目の当たりにして、これまでの自分の姿勢を省みました。また、タイの文化を体験したりタイの田舎の生活の様子を見ることで自分の価値観を見つめ直しました。

また、文化祭実行委員会では委員長として委員会や文化祭の運営にも携わり、大きな組織を仕切るリーダーシップを育みました。そして、明確な意図や目標、

計画を持って行動する重要性を学び、実行力を鍛えました。その結果、なずな祭を無事終えることができ、みなで協力してひとつのことを達成する喜びを感じました。

他にも1年生から3年生までの球技大会ではクラスのみなんと一丸となって戦い、良い結果を残すことができました。勝利したときの笑顔、負けたときの涙は今でも忘れられません。

このような思いで深い高校生活を送ることができたのも御社のサポートがあったからこそです。今後も夢の実現に向かって努力し、自分を高めていきたいと思っています。3年間どうもありがとうございました。

奨学生生活を振り返って

K 専門学校 S・S

この奨学生生活を振り返って、私は特別給付ということで支給をして頂いたので、半分は将来歯科衛生士になった際にセミナーや講座を受講するための費用として貯金をしました。そして残りの半分は、国試講座の受講費や、参考書を購入したりなど自由に使わせていただきました。

現在、国家試験に向けて修学に励んでおり、模擬試験も受けつつ、成績も順調に上がってきています。就職先も決まり、四月からその職場で働かせていただくのでそれまでにはしっかりと勉強や準備をしていきたいと思えます。

そして最近、周りの友達らと教え合いながら切磋琢磨して勉強に励んでいます。そのおかげか、友達らも順調に成績を上げてきており、とても嬉しい限りです。この調子で一人でも多く国家試験に合格できることを願

ます。

これから、就職してからも技術を磨くだけでなく、日々学ぶことも忘れずに、人に必要とされるような歯科衛生士になれるように頑張りたいと思います。

奨学生生活を振返って

K専門学校 N・M

この度は2年間もの長きにわたり小貫基金特別給付奨学生として採用していただきありがとうございました。奨学生として採用されたことでより一層勉強を頑張ろうという気持ちが高まり、また経済的に余裕が出来たことでゆとりをもって学業に取り組むことができました。

特に2年次後期に行われた臨床実習時はその分働ける日数が減ることもあり、経済的に厳しい部分もありましたが、奨学生として採用していただいていたおかげで予定よりも少ない労働時間で済み、その分臨床実習に集中して取り組むことができました。

実際に臨床の場で経験を積む貴重な機会であったため、負担の少ない状態で行えたことに感謝しています。この先卒業試験と国家試験を経て臨床の場に出ることになりますが、資格を取って終わりではなく、日々進化し続ける歯科医療の場において目の前の患者にとって最良の医療を提供できるように常に考え、学び続ける気持ちを忘れない歯科衛生士になりたいと思います。

奨学生生活を振り返って

2年間、小貫基金の奨学生として採用していただき誠にありがとうございました。

私は、こちらの奨学金以外に1年生から貸与奨学金を受けながら学校に通っています。ですが、両親は私が将来返す奨学金の負担を減らそうと沢山働きながら借りる金額を少なくしてくれています。私は、その姿を見て少しでも両親の負担を軽減したいと思い勉強に励みました。アルバイトをしながら学校に通っていましたが、3年生の秋ごろからは本格的に勉強を始めるため、アルバイトを辞めることを考えていました。ですがアルバイトを辞めると両親に迷惑をかけてしまうため辞めるかどうか悩んでいました。そのとき、小貫基金の奨学生としてご支援いただくことことが決まり安心して勉学に励むことができました。アルバイトをしていた時期も奨学金のおかげで減らすことができ、自分自身も無理することなく1度も学校を休まずに授業を受けることができました。皆様のご支援のおかげで経済面だけでなく、精神面でも支えていただきました。

また、就職活動も順調に進み内定をいただくことができました。

卒業試験を終えましたが、3月には国家試験を控えているので合格できるよう再び気を引き締めて頑張っていきたいと思います。

今後、無事に資格を得る事ができ働きだしても皆様の御恩を忘れずに日々成長していけるよう精進して参ります。

K専門学校 A・F

い	う	意	識	が	よ	り	強	く	な	り	ま	し	た	。	そ	の	為	に	ま
ず	は	、	約	一	か	月	後	に	控	え	た	国	家	試	験	に	必	ず	合
格	し	、	歯	科	衛	生	士	と	し	て	働	く	こ	と	に	な	っ	て	か
ら	も	積	極	的	に	歯	科	医	療	知	識	へ	の	学	び	、	探	求	心
を	絶	や	す	こ	と	な	く	努	力	を	続	け	て	い	き	た	い	と	思
い	ま	す	。																

まず初めに、奨学生に選んでいただいたことを心から感謝しております。奨学金のおかげで、時間に余裕ができて、学業や課外活動において貴重な経験を積むことができました。本当にありがとうございます。

課外活動で一番印象に残っているのは、「稲毛のあかり祭り」でのボランティアです。私が担当したエリアでは、小学生がキャンドルを作り、公園中に展示しました。子どもたちは自分の作品を家族に紹介し、楽しそうに笑顔を見せている姿は、非常に感動的でした。このような活動を通して、地域社会とのつながりや、他者と協力する意義を改めて実感しました。

私は来年4年生になるので、目標であるオーストラリアの大学への進学を目指してTOEFL試験の準備を始めたいです。また、続けてきたプログラミングもMOSExcelや日本語能力試験N1の試験も挑戦したいと思います。私は、将来はプログラマーとして、生活をよ

りべんりにするアプリケーションを開発した
いと考えこいます。窓口での待ち時間を短縮
するシステムやより精密な地図ナビゲーショ
ンを実現するアプリを作りたいと思います。
現状のアプリケーションには、まだ多くの問
題があります。これらを解決する技術を開発
し、多くの人々の役に立ちたいと思います。
また、デジタル機器の操作が苦手な人々にモ
使いやすい設計を目指し、ボランティア活動
で得た経験を生かしたいです。
奨学生生活を通して、多くに学びと成長を得
ることができました。奨学生によ、こ得られ
た貴重な機会に深く感謝しこいます。この経
験を土台にこれからも努力を続け、自分の目
標を実現しこいきたいです。

奨学生生活を振り返って

M大学 K・T

この度は、小貫基金特別給付金を支給していただき、ありがとうございました。奨学生として過ごした日々は、私にとって貴重な学びと成長の時間でした。この経験を振り返ると、挑戦や達成感、そして感謝の気持ちが心に残ります。

奨学金の支援をしていただいたことで、経済的な不安が軽減され、学業に専念できる環境が整いました。これにより、目標としていた分野の勉強や研究に深く没頭することができ、知識やスキルを大きく高めることができました。また、挑戦したい分野の研究に十分な時間と集中力を注ぐことができたことは、今後の人生において大きな財産となると感じています。さらに、奨学金の支援をしていただいているからには成果を上げたいという思いが強く芽生え、努力する原動力となっていました。

学生生活を送るなかで、成長したと感じる瞬間が多々ありました。大学の友人・教員との交流だけでなく、研究活動等多方面で知り合った仲間たちとの交流を通じて、自分自身の視野を広げることができました。そして、奨学金の支援のおかげで、心の余裕もでき、精神的にも落ち着いた状態で勉学に励み、課外活動にも積極的に参加し、充実した生活を送ることができました。

最後に、貴基金の奨学金があったからこそ、このような充実した学生生活を送ることができたことに、心から感謝しています。今後もより一層努力し、精進して参ります。

奨学生生活を振り返って

M大学 K・T

この度は、小貫基金特別給付金を支給していただき、ありがとうございました。大学生活を送る中で、私は奨学生として多くの学びと経験を積むことができました。特に、所属学部である不動産学部での学びは将来のキャリアに直結するものであり、多くの知識とスキルを身につけることができました。授業や学部でのプロジェクトを通じて、建物の構造や都市計画、法規制について理解を深めることができました。また、先生や仲間とのディスカッションをとおして、理論を実際の課題に適用する力を養うことができたことは、今後の人生においても大きな財産になったと思います。

私は、学業と並行して、ボランティア活動にも参加をしました。自分が住む地域の高齢者の方々が暮らす施設で活動を行い、そこで働く人々、人生の先輩たちから多くのことを学び、考える機会となりました。この活動では特に、相手のニーズを迅速かつ正確に察知し行動に移すということがどれほど難しいことかということを実感し、日頃のコミュニケーションの重要性を再認識しました。この経験は、社会とのつながりを深め、人々の生活をより良くするための努力がいかに重要かを理解する貴重な機会となりました。

卒業後の進路としては、不動産関連の企業に就職することが決まりました。不動産業界は、今まで自分が学んできたことを実践し、さらに発展させることができる絶好の場だと思ったからです。特に、物件の開発や管理、顧客との関係構築においては、大学や課外活動での学びが大いに役立つと考えます。先述したボランティア活動を通じて得たコミュニケーションスキルやチームワークの経験も、今後の人生において大きな強みになることと思います。

学生生活を振り返ってみると、挑戦と成長の連続だったと感じます。学問の探求とその実践、そして地域社会への貢献を通じて、多くのことを学び自分を成長させることができました。これからも、今までの経験を糧にし、より一層の努力をし、世の中に貢献していきたいと思っています。

奨学生生活を振り返って

M大学 Z・T・K・F

この度は、小貫基金特別給付金を支給していただき、ありがとうございました。私は2年前、大学の先輩を通じて小貫基金の奨学金の存在を知り、その後奨学金について詳しく調べ応募に至りました。当初は、自分がまだ十分に優れていないと感じ、採用になるのは難しいのではないかと不安でしたが、応募してみようという気持ちが、私の大学生活の新たな扉を開いてくれることになりました。

奨学金の支援により、大学生活はより充実したものになりました。経済的負担が軽減されたため、学業に専念することができるようになり、大学での勉強だけでなく、TOEIC845点や日商簿記など就職活動をする上で有利となる資格などの試験勉強に取り組む時間を確保することができました。さらに、就職活動にも力を入れることができ、その結果、私の母国であるベトナムに多数の拠点をもち、ベトナムと密接なつながりを持つ企業に就職することが決まりました。この企業での経験は、ベトナムと日本の架け橋になりたいという私の夢に一步近づけるはずであると確信しています。

奨学金の支援を受けたことで、学業の成果だけでなく、私の生き方や価値観も変わりました。人生は、「受け取る」だけでなく、「与える」ことも大切だと気付きました。これまで多くの支援を受けた私にとって、それらの恩を今後返していく責任があると感じています。私は、「今までの恩を忘れず、見返りを求めずに人を助けることの大切さ」を学びました。将来的には、私と同じように奨学金やその他の支援を必要とする学生に対して、何らかの形でサポートしたいと考えています。それが、私がこの奨学金を通じて得た大切な教訓の一つです。

もし小貫基金奨学金の支援がなかったら、今のような考えを持つ私はいなかったと思います。私は、この奨学金を通じて支えてくださった全ての方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。この機会を与えていただいたおかげで、自分の能力を向上させ、成長することができました。この奨学金は、私の人生に計り知れない影響を与え、これからも私の生き方を支えてくれる存在です。今後も貴基金がさらに発展し、多くの学生の助けになることを願っています。

奨学生生活を振り返って

M 大学 B・A・T

このたびは、小貫基金より奨学金をいただき、心より感謝申し上げます。この奨学金のご支援により、私は学業に専念できる環境を得ただけでなく、将来に向けた重要な経験や知識を身につけることができました。

現在、私は卒業論文の研究に取り組んでいます。テーマは「ファストファッションが促す持続不可能な経済成長」です。この論文を執筆するためには、多くの文献を読み込み、調査や分析を行う必要があります。時間や資金が欠かせませんでした。その中で、小貫基金のご支援が私にとって大きな力となりました。奨学金のおかげで、経済的な不安を感じることなく研究に集中でき、自分の興味や問題意識を深めることができました。

また、この奨学金は研究面だけでなく、生活面でも大きな支えとなりました。学費や参考文献の購入費用に悩むことなく、自分の成長に繋がるさまざまな挑戦ができたことは、これからの人生にとっても貴重な経験です。たとえば、国際労働者組合との交流活動に参加する機会を得たことで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、自分の意見をしっかりと伝える力も養うことができました。これらの活動は単なる知識の習得にとどまらず、人との縁を深め、将来の職業人生にも大きな影響を与えるものだと感じています。

学生生活最後の年となるこの時期に、このようなご支援をいただけたことで、自分の目標に向かって全力を尽くすことができていると思います。大学卒業後は、この貴重な経験を活かし、社会に貢献できる人間になれるよう努力していきたいと思っています。

奨学生生活を振り返って

M大学 M・Y

この度は、大学3年生からの約2年間、小貫基金特別給付奨学金を支給していただきまして、誠にありがとうございました。貴財団にいただきましたご支援のおかげで、この2年間は臨床実習や勉強といった自分のなすべきことに専念することが出来たのではないかと感じております。

私は大学入学時に、医療従事者を目指す者として、大学ではこれまで以上に勉強に励むという目標を立て、4年間の学生生活を過ごしてきました。3年生になり臨床実習が始まってからは、自己学習を行える時間が減り、勉強時間の確保が難しいと感じることもありました。貴財団からいただきました奨学金のおかげで、アルバイトなどは行わずとも生活ができ、空いた時間を勉強に費やしたり、給付していただいた奨学金で必要な参考書や教材を購入し、自己の知識習得に繋げることができました。

また、臨床実習が始まってからは、実習着やグローブなどの消耗品の購入に加え、実習先までの交通費などにより経済的負担が大きかったです。しかし、貴財団より給付していただきました奨学金をそれらの支払いに充てることで、経済的負担も軽くすることができました。

現在は来年3月に控えた国家試験合格に向け勉強に励んでおります。貴財団からいただきましたご支援を無駄にせず、今後に繋げていくためにも、国家試験合格に向け今後も勉強に励んで参ります。

最後になりましたが、貴財団理事長の小貫満義様をはじめ、これまでご支援いただきました全ての方々へ心より感謝申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 A・K

この度は、小貫基金特別奨学金を受けさせていただき、心から感謝の意を申し上げます。貴財団の恩恵により大学4年時の1年間、無事に大学を通うことが出来ました。

奨学生生活を振り返ってみますと、学習資材や模擬試験、国家試験の受験費に対する経済的な心配が軽減され、専念して勉学に励むことが出来ました。現在は卒業試験や歯科衛生士国家試験に向けて日々努力をしています。3年時までは、授業の合間に臨床臨地実習がありアルバイトをしながらであったため、体力が続かず勉学に時間を割くことが困難でした。しかし、4年時では、前期に臨床臨地実習があり合間に模擬試験がありながらも、勉学に集中することができ、前期の内から国家試験の合格点に達することが出来ました。現在も貴財団の奨学生としての自覚を常に持ちながら、卒業試験や歯科衛生士国家試験に向けて勉学を励んでいきます。

臨床臨地実習を通じて歯科衛生士の資格を持ちながら養護教諭の仕事をしている方にお会いし、将来は歯科衛生士の資格を持った養護教諭になりたいと考えています。そのために養護教諭の資格取得に必要な解剖学や生理学などを忘れずに日々、努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、ご支援くださいました一般財団法人 小貫基金に心よりお礼申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 R・K

二年間、小賞基金奨学生に採用していただき心より感謝を申し上げます。貴財団のご支援のおかげで、より一層勉学に励むことができとても充実した学生生活を送ることができました。

3年生からは臨床実習が始まり、実習とアルバイトの毎日とても忙しい日々を送っていました。しかし貴財団のご支援によりアルバイトの量を調節することができたため勉学、実習に集中することができ、無事に臨床実習を終えることができました。臨床実習を通して、歯科衛生士としての技術や知識だけではなく、社会人としてのあり方を学びました。臨床実習は辛いこともありましたが、貴財団はもちろんのこと、同級生、大学の先生方、家族など多くの方に支えてもらいとても有意義な時間を過ごすことができたことは貴重な経験です。

現在は、歯科衛生士の国家試験に向けて日々勉学に励んでいます。歯科衛生士の免許取得後も何かに夢中になって励むことの楽しさを忘れずにこれからも精進して参ります。

この度は、貴財団の奨学生に選んでいただき誠にありがとうございました。

奨学生生活を振り返って

M大学 M・H

約3年にわたり、小貫基金特別給付奨学金に採用、ご支援いただきまして誠にありがとうございました。

ご支援のおかげで、一人暮らしの生活費や学費、臨床実習先までの交通費などの経済的不安を大幅に軽減することができ大学生活を有意義な期間にすることができました。

大学進学と同時に親元から離れ一人暮らしを始めました。両親はわたしの決断を快く後押ししてくれましたが、金銭的負担をかけてしまうことに大きな不安や申し訳ない^い気持を抱え生活していました。しかし、貴財団からの奨学生の選考に選んでいただいたと伺った時は今までの努力が認められたと感じとても嬉しかったことを今でも覚えています。また、両親もとても喜んでくれました。

4年間の大学生活を振り返ると国家資格取得に向けて、日々の勉強や臨床実習や卒業研究に全力で取り組むことができました。

現在は、約1年半の臨床実習と卒業研究は終了し卒業試験と国家試験を残すのみとなりました。国家試験合格までの残りの期間、小貫基金奨学生の名に恥じぬように勉強に取り組んでいきたいと考えています。大学を卒業した後もご支援していただいたことを忘れず支えてくださる皆様に感謝の気持ちを持って日々全力で取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、ご支援していただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

感想文「奨学生生活を振り返って」

M大学 S・Y

この度は、小貫基金奨学生として多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。貴基金のご支援により経済的負担が軽減され、アルバイトの時間を低減することができ、学業に専念することができました。ご支援を賜りました奨学金は、一人暮らしをする上での生活費と修学費に充てております。また、臨床実習や就職活動での支出においても、貸与奨学金やアルバイト代では補いきれない部分を貴機構のご支援により工面することができ、心より感謝しております。

私は将来、歯科衛生士を目指しており、学生生活では歯科衛生士として必要な素養を十分に身につけることに注力してまいりました。一年次には基礎分野の知識、二年次・三年次には学内実習や臨床実習を通して、将来歯科衛生士として臨床に出る上で必要な知識と技術を学びました。授業内容は幅広く、覚えることに苦勞する面もありましたが、少しでも多くの知識や技術を身につけることが出来るよう日々努力を続けた結果、貴基金の奨学生として学校から推薦していただくことが出来ました。その後も継続して学業に励み、四年次には卒業研究に取り組みました。私は「大学生における口腔がん・口腔がん検診の認知度」について研究し、若年者の口腔がんおよび口腔がん検診の認識状況を明らかにすることで、歯科衛生士として社会に貢献するための視野を一層広げることが出来ました。また、三月には国家試験を控えております。残り少ない学生生活ですが、悔いのないように試験勉強に励み、国家試験合格に向けてより一層の努力を行ってまいります。国家試験合格後は、歯科衛生士として日々スキルアップをすることも出来るよう今後も努力を継続し、患者様の口腔の健康を支え、社会へ貢献できるよう精進いたします。

最後になりましたが、ご支援を賜りました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

奨学生生活を振り返って

C大学 A・S

奨学生としての生活を振り返ると、感謝の思いとともに、多くの学びと成長を実感している。小貫奨学金を通じて、経済的な支援を受けただけでなく、より深い学問への取り組みや将来への視野を広げる貴重な時間を得ることができた。このような機会をくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

奨学生生活を通じて、私は学業に全力で取り組むことができた。特に、研究テーマである「暗号資産に関する法規制と会計処理の研究」についての分析を進める中で、データの収集、解析方法や論理的な思考を鍛えることができた。この経験を通じて、私はただ知識を吸収するだけでなく、自分自身で新たな知見を生み出す喜びを感じることができた。

この奨学生生活で得た経験は、私にとってかけがえのない財産だと思う。今後は、研究をさらに発展させるとともに、学んだことを活かして社会に貢献していきたいと考えている。特に、暗号資産に関する企業の発展に寄与するような仕事に携わりたいと考えている。

最後、私を支えてくださったすべての方々に心からの感謝を申し上げます。このご恩を忘れることなく、努力を続け、未来へと繋げていく所存である。本当にありがとうございました。

この度は、小貫基金の特別給付奨学生に採用していただき本当にありがとうございました。

大学卒業、そして国家試験を受験する年を迎えた今年の春に父の仕事の状況が悪化し、今までと同じような生活を送ることが困難になりました。大学の先生を通じて、小貫基金の存在を教えていただき、急だったにも関わらず奨学生として採用していただいた小貫基金には感謝の気持ちでいっぱいです。これからどうしたらいいのか途方に暮れる中、面接の時から、支えになる言葉をたくさんかけてくださり、とても私のことを気にかけてくださり、そして私の気持ちに寄り添っていただいた小貫基金の方々の存在は、私の生活においてとても大きな支えとなりました。小貫基金からの奨学金のおかげで、今勉強に集中することができています。

大学生活は、国家試験を控えた学年ということで、同じ目標を持つ友人たちと切磋琢磨し合いながら勉学に励む日々が続いています。大学ではとても密度の濃い講義を毎日していただき、学びを深める日々です。また大学内では最終学年ということで、学生最後の残りわずかとなった大学で友達と過ごす時間を、日々大切にしながら過ごしています。

これから卒業試験と国家試験が控えていますが、支援をしてくださった小貫基金の方々の気持ちをいつも心に持ちながら、目標に向かって精進していきたいと思えます。期待に応えられるような自分でいられるような努力も、続けていきたいと思えます。

特別給付奨学金の受給にあたって、ご尽力いただいた大学の先生や学生課の方々、私を一番近くで支えてくれている家族、そして経済的な不安なく勉強に集中することを可能にくださった小貫基金の方々への感謝をいつも胸に、感謝を忘れずに、立派な社会人になりたいと思えます。本当にありがとうございました。